



sapporo education and culture hall news
Raku



「特集」 赤ちゃんも一緒に。親子で楽しむ芸術

はじめての クリスマス コンサート

2018.12.19[水] 11:00開演 10:15開場

札幌オペラシンガーズによる「ママと子どものはじめての音楽会」は、赤ちゃんも参加できる人気のコンサートシリーズ。2010年から札幌市教育文化会館でスタートし、毎年大盛況！今年はクリスマスコンサートとして開催します。ママ友を誘って、親子で一緒に素敵な音楽を楽しんでみませんか？

1 赤ちゃんも 一緒に楽しめます！

コンサートは0歳児から参加できます。赤ちゃんが泣いても大きな声を出しても、小さなお子様が走り回っても全く問題なし。来場者からも「子ども連れでも気にせず聴ける温かい雰囲気が良かった」「短い時間で0歳の子どもと一緒に楽しめた」などの感想が多数。

2 おむつ替えコーナー 授乳室もあり！

「普段の外出時はおむつ替えコーナーや授乳室があるかどうか気にしてしまっ、つい家にこもりがち」というママたちの声を受けて、大ホールの楽屋エリアに両方を完備。コンサートも途中入退場可なので、安心して楽しめます。ベビーカーはベビーカークロークへ。

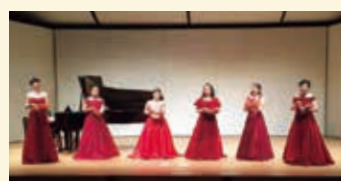
3 音の出るおもちゃ 楽器を持って行こう！

我が子に楽器を持たせたら、さらにうるさくしてしまうのでは…と不安に思うことなかれ。札幌オペラシンガーズ代表の井出祐子さん曰く「音楽の原点は人間の声と打楽器。うるさくなくてもいいんです。みんなで楽しんで音楽を共有しましょう」。歌や手拍子でもOKです！

会場に満ちる幸福感。 お子さんと一緒に楽しむコンサート

札幌オペラシンガーズの皆さんによる「ママと子どものはじめての音楽会」は、0歳児から入場できるコンサートとして2010年にスタート。ディズニーメドレーや『となりのトトロ』の名曲「さんぽ」といった誰もが知る人気曲から、オペラの名曲まで、子どもと一緒に素晴らしい歌声を楽しめると大好評です。でも、本当に赤ちゃんが泣いても大丈夫？「お子さんが泣いても大丈夫です。毎回、子どもが泣いても大丈夫です。毎回、子どもが泣いたら困るのですが、外に出られるようにと、お席に座らずにドア付近に立っているお母様が多くいらっしゃいますが、気にせずどうぞお席について音楽を思いっきり楽しんでください」と、お声がけをしております。

「す。そう答えるのは、札幌オペラシンガーズ代表の井出祐子さん。」「お子さんたちも歌が始まった途端に静かになったりして、音楽にとっても興味を示してくれるんです」と話します。「育児中は家に閉じこもりがち」「小さい子どもと一緒に楽しめる場所がない」などの声を受け、子育て中のママが気兼ねなく、子どもの頃から劇場で音楽を楽しめる環境づくりをスタートさせた音楽会。初開催時には、開場前のロビーにベビーカーがズラリと並ぶという通常の劇場では見られない光景が広がり、「お子さんたちのパワーで満ちあふれる光景に感動しました」と井出さん。毎回欠かさず歌う「さんぽ」では、ママも子どもたちも一緒に大合唱。ステージと客席



札幌オペラシンガーズ

1994年北海道唯一のオペラ研修団体「札幌オペラスタジオ」として発足し、2015年より演奏家団体として生まれ変わる。オペラなど幅広いジャンルで育児支援、他多様なコンサートを展開。

ママと子どもの はじめての クリスマスコンサート

2018年12月19日[水]
11:00開演 10:15開場

【会場】札幌市教育文化会館大ホール

【出演】札幌オペラシンガーズ

【料金】500円

お膝の上でお聴きいただくお子さまは無料です。
イスにお座りいただくお子さまは500円を頂戴いたします。



授乳室・オムツ替えコーナー完備!

赤ちゃんが泣いてもOK!

講師2名も子育て世代!

コミュニティダンス関連事業

ゆるぎゅっぽん!

2019年
2月20日(水)・24日(日) 11:00~12:30

1日のみの参加もOK!

【参加対象】

0歳3ヶ月~3歳&保護者10組

【参加料】

1日500円(全2日)

※1日のみの参加もOK!

遊びのような、ダンスのような、幸せいっぱいの触れ合いタイム。
それが「ゆるぎゅっぽん」。テンションマックスの子どもが
さらに愛しくなるワークショップを開催!



ファシリテーター／micelle(ミセル)



【振付家・ダンサー】
櫻井 ヒロ
(さくらい ひろ)



【振付家・ダンサー】
河野 千晶
(こうの ちあき)

2014年に櫻井ヒロと河野千晶により結成された接触と即興のダンス、コンタクト・インプロビゼーションのユニット。それぞれが家庭を持ち子どもを持ったことをきっかけに、親子で楽しめる触れ合い遊びやダンスの活動を開始。親子向けワークショップを開催するなど、多数の親子と交流している。

「小さい子どもがいるので、常に気が張っている『子どもとの遊びのネタを増やしたい』。そんな育児中の人たちにおすすめるのが、micelle(ミセル)の二人によるワークショップ「ゆるぎゅっぽん」。

子育て真っ最中の櫻井ヒロさんと河野千晶さんが、「子どもと触れ合う時間を通して、親子の心と体を緩めたい」という想いのもとスタートさせるワークショップです。

大切なのは触れ合いながら「遊ぶこと」。河野さんは「子どもが自分から離れている時って、子どもが何かやらかして怒るとか、おもちゃで遊んでいても壊れるからダメとか怒ってしまうことがあるけれど、触れ合って遊んでいる時は怒りようがない。それってお互いに嬉しいことだと思ふ」と話します。

「ゆるぎゅっぽん」ワークショップは、ダンスをしましうー!という感じじゃないので、ただその場にいてもらうだけでもOK。子育て中の人たちがホッと一息つけるような、抛り所になるような、楽しいと思ふ」と櫻井さん。

もしかしたら我が子の場合、触れ合うどころか走り回って終わるかも...? そんな元気なお子さんでも全く問題なしなので、気楽に参加してみてください。

申込方法

①郵便／札幌市教育文化会館事業課 〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 ②FAX／011-271-1916 ③窓口(教文2階)
※応募用紙にご記入の上、教文窓口または郵便、FAXにてお申込みください。 ※教文HPから応募用紙のダウンロードができます。http://www.kyobun.org/

KYOBUN EVENT REVIEW



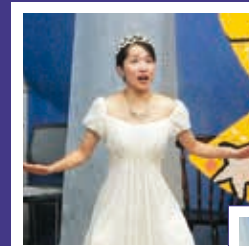
蜂の羽音のようなヴァイオリン曲も!



「アッチェ」はイタリア語「グラッチェ(ありがとう)」の赤ちゃん言葉で、「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちが込められているそう。



一緒に手遊びすると、子どもたちも大喜び!



自身も子育て真っ最中の柳生たまさん。



3人のドレス姿に子どもたちもうっとり。



はらぺこあむしでは絵本と人形も登場。

【ペンガアート】

舞台美術を手がけたのは
「ペンガアート」の子どもたち!



ペンガアートは発達障がいのあるお子さんに対して、アートを通じてコミュニケーション力や自己肯定感を高める療育を提供している放課後等デイサービス。今回のコンサートでは、子どもたちが歌を事前に聴いて、イメージを広げながら描いてくれた絵が舞台を飾りました。

accie (あっちえ)

演出家：櫻井幸絵、ピアニスト：日小田直美、ソプラノ：柳生たまの3人で2014年春に結成したグループ。子ども連れで気軽にクラシックを楽しんでもらえるコンサートを企画、公演している。普段子育てで外出するのも困難な母親と子どもに、カフェやホールでのコンサートを楽しんでもらい、クラシック音楽の裾野を広げると共に、行動範囲が狭くなってしまいがちな子育て中の母親に、リラックスした時間を過ごしてもらうというコンセプトで活動を展開している。

事業 報告

あっちえ
accie の

月あかりの子守唄

0才からのクラシックコンサート
「日時」11月24日(土)・25日(日) 「会場」4階 研修室401
毎年大好評の親子コンサートシリーズ第三弾。
大人には癒しを、子どもたちには芸術をプレゼントする
親子コンサートを開催しました。

ふかふかクッションでくつろぎながら、
素敵な音楽に包まれる温かな時間

「始まるよ」。始まるよ。月の世界をイメージした部屋にベルの音が響くと、お姫様のようなドレスを纏った柳生たまさん(ソプラノ)、日小田直美さん(ピアノ)、長谷川加奈さん(ヴァイオリン)が登場しました。子どもたちがキラキラした眼差しを送る中、一曲目がスタート。ママやパパに笑顔を向ける子、じっと歌い手を見つめる子、思い思いに楽しむたくさんの親子を素敵な音楽が包みます。3人が輪唱した長崎のわらべうた・手遊び歌『でんでらりうーば』では、演出の櫻井幸絵さんも打楽器で交じり、会場からも自然と手拍子が。子どもを膝の上に乗せてゆらゆら揺れながら、大人もク

ラシックの名曲や沖縄民謡、讃美歌などバリエーション豊かな音楽に聴き入ります。最後は「ゆりかごのうた」で終了。柳生さんは「子育ては日々大変なことが変わっていくけれど、その時々可愛い!楽しい!という瞬間があつて。そんな瞬間になるような素敵な時間を音楽で届けられたらいいな」と思つて、このコンサートをやっていきます」と話します。アンケートにも「子どもが歌や曲にうっとりして最後まで聴いていました」「親子でゆったりと触れ合い、くつろぐ時間を過ごせてよかったです」などの声がたくさん寄せられ、幸せな余韻を残すひと時となりました。accieの皆さん、ありがとうございました!

子ども演劇

【ワークショップ+発表公演】

事業コンセプト

札幌市教育文化会館では平成28年より、公募した小中学生の参加者が地元劇団の演出家や役者の大人たちと長期間のワークショップを行う中で、演劇的な遊びや表現方法を学びながら一つの作品をつくりあげ、発表公演を行う「子ども演劇ワークショップ」事業を実施しています。平成30年度は19名の子どもたちが演出家の南参さん(yhs)と一緒に劇づくりに挑戦、3月に発表公演を行います！

これまでの発表公演

音楽劇『わが町』 [2017.3.25-26]

アメリカの劇作家ワイルダーの名作を、札幌を舞台にリメイク。観客の人生を照らすような物語に子どもたちが挑戦！



『ローリング・ストーン』 [2018.3.25]

原作は野田秀樹。戦争と愛に振り回される人々と石たちの記憶を巡るシリアスな物語を、27名の子どもたちが熱演！



演出家・南参さんインタビュー

平成30年度発表公演『夏の夜の夢子ちゃん♥』 [2019.3.16]

シェイクスピアの名作喜劇が、学園コメディーとなって登場！

これまでの2作は、子どもたちに背伸びさせる役柄をあえて与えていました。演劇の入口に立ったばかりの子どもたちに、等身大ではなく、年齢も立場も異なる人たを演じる楽しさを経験してほしいなと思って。今年度は原作を大幅にリメイクして学園コメディーにするので、子どもたちにとっては等身大の役柄です。その代わり、自分が演出を担当した3年間の集大成として、「狙って笑いを取る」難しさに挑戦してもらいます。観客からするとコメディーの方が楽しく見ることができると思うけど、演じる側からするとコメディーは相当難しい。それに、何と言ってもコメディーは僕らyhsの本領ですから、稽古も手加減なしで行く予定です。学校が舞台とはいえ、妖

精みいたな人間も登場しますし、惚れ薬も出てきますので、原作ファンもご安心を。3月の発表公演を楽しみにしてください！



〔脚本・演出〕
南 参 (なんさん)

1997年、札幌で劇団「yhs」を結成。世の中のさまざまな物事を独自のユーモアによって切り取る脚本と、俳優たちの個性を最大限に活かした演出で評価を受けている。創り出す舞台のジャンルは幅広く、社会派的なシリアス劇から、とことんバカバカしいコメディ作品まで、どん欲に創作活動を行っている。現在、日本劇作家協会北海道支部・副支部長。

【札幌市教育文化会館・子ども事業】

こんにちは～！今回の「楽」は子どもを対象とした事業に注目した特集だったけど、みんな楽しんでくれたかな？教育文化会館っていえば、演劇や古典芸能のイメージが強いかもしれないけど、未来の表現者やお客さんになることを願って、子ども事業もたくさんやっているんだ。特に子ども演劇ワークショップでは、yhsのみなさんと一緒に作品をつくって最後には発表公演をするんだけど、とても本格的！今回はシェイクスピアの名作を上演予定で、どんな作品になるのか今から楽しみ！！子どもから大人まで、観る人も、作る人も、演じる人もみんなが楽しめるような作品になるといいなあ～！



教文大使
コネ・クートくん
designed by ロケットデザイン

SAPPORO ENGEKI no WA

畠山由貴さん(劇団パーソンズ)から指名

〔プロフィール〕

小佐部明広

Akihiro Kosabe

1990年、札幌市生まれ。高校から演劇を始め、北海道大学の演劇サークルを経て、2011年に「劇団アトリエ」を旗揚げ。以降、劇団終了の2016年まで全ての演出とほとんどの脚本を担当。『ともこのかげ』で第3回せんだい短編戯曲賞ノミネート。『瀧川結芽子』で若手演出家コンクール2015優秀賞。2015年TGRアカデミー奨学生。



クラアク芸術堂

小佐部明広

作品をつくることの

根底にあるのは「救い」かもしれないです。

2011年に劇団アトリエを結成し、札幌劇場祭TGR 2011で新人賞受賞。2012年作の『学生ダイアリー』は札幌演劇シーズン2016夏で上演され、代表作に。2017年には「クラアク芸術堂」と名称変更し、同時にグループユニット「プロト・パスプア」を立ち上げた小佐部明広さん。創作の根底にあるものについて伺いました。

クラアク芸術堂として活動を新しく始めた経緯を教えてください。

劇団アトリエではコメディイだった暗い作品だったり毎回毛色の違う芝居をやってお客さんが定着しづらいかもと思ったのがきっかけです。クラアク芸術堂では本公演を年1回行って、他に、メンバーが立ち上げたカラーの異なるグループ・ユニット3つがそれぞれ公演を行っています。僕がディレクターを務めるユニットが「プロト・パスプア」です。

プロト・パスプアの特徴とは？

純文学、身体、声をキーワードに、舞台表現の可能性を追求しています。演劇はセリフに頼ってしまいがちだけど、言葉じゃないところの表現を模索したい。例えば身体についてだと、2017年にクラアク芸術堂で再演した『半神』でダンサーの櫻井ヒロさんに振付をお願いしたり、その後もワークショップをやってもらったりして、いろいろな研究しています。

小佐部さんにとって演劇の面白さとは？

映像なら場面転換も一瞬でできるのに、舞台だとそれは無理。でも、逆にその制約をどんな仕掛けで乗り越えていくのかという部分は、お客さんにとって楽しいと思う。そうやって演劇で見た方が楽しい部分をつくっていくために、身体や声のことをきちんと考えたい。ただセリフを話すだけなら、きつと映像の方が面白いと思う。

今、作品をつくることの根底にあるものとは？

自分と異なる世界に生きる他者のことを、人々はもう少しわかった方がいいと思っていて。人は条件次第で良くも悪くもなるのに、ある人が犯罪や貧困に至るまでの経緯について想像できず、「自分とは違う人間」と線を引いてしまう「誰だってそうなり得る」という想像力を持ってほしいし、社会の分断を解消する役割が、多分演劇にはあると思う。あと、僕は中村文則という小説家が好きなのですが、初めて彼の作品を読んだ時、感覚的に通じる部分があって救われたような気持ちになったんです。作品をつくることの根底にあるのは「救い」かもしれない。100人が見て全員が面白いと思うものではなく、そのうちの何人かが「よくぞこの作品をつくってくれた」と救われたように感じてくれたらいいなと思って、プロト・パスプアをやっています。